

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、22番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。執行部のほうは、答弁は簡潔で正確にお願い申し上げます。

庁舎内の照明についてであります。

実は、私が2月末ぐらいに県庁に行ったわけですよ。ちょっと用事で行きまして、そのとき、行ったときはちょうどお昼でございまして、真っ暗かところで飯ば食いよんさったわけです。それで、おいしかですかという話ばしよったら、「がん暗かところで食うておいしかですか」と言うたら、その県庁の職員さんが「きょうはよかほうですよ」って、「雨の降うぎ真っ暗かですよ」という話でございました。武雄市もお昼は電気を消灯されておりますけれども、質問として県内の他の自治体の状況は、昼休みの照明についてはどうなのか、そこをお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

県内10市の状況でございますが、10市とも昼休みの消灯に取り組んでいるということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

10市全部取り組んでいるということでございますけれども、私は節電も大事だけど、何か行き過ぎじゃないかなということも思っております。やっぱり暗いところで食事ばすっぎ、私はやっぱりうもうなかと思うわけですね。私は体にも悪かっちゃなかかなというふうな、消化に悪いような感じがするわけですよ。それは何でかといいますと、やっぱり食べ物というのはまず目で見て、おいしかなって脳で感じて唾液とか出ると思うですもんね。やっぱりそういうふうな意味では、体にも余りよくなかっちゃなかかなと思いますけれども、私は、専門家じゃないのでわかりませんから、質問といたしましては、食育上、食事は明るいほうがいいというような学術的な見解でもございましたら、まず御紹介を願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

調査いたしましたところ、2010年11月に同志社女子大学が食事団らんに適した光環境に関する研究というのを発表されております。それは、調理品の見えの好ましさ、食卓を囲む人の顔の見えの好ましさということでは、照度が高いほど評価が高いと、職員が昼休みに休憩

をとって、職員相互のコミュニケーションをとるためには、食品のおいしさや一緒に働く同僚の表情を視覚で感じるためのある程度の照明が必要であるというふうな報告がなされております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、やっぱり職員さんがいい環境で市民のためにしっかり働いてもらいたい。市民のために働いてもらいたい、奉職してもらいたいと思います。そのために私は、私の考えですけれども、それはもう確かに節電でそれも大事かわかりませんが、昼間電気をつけるとか、それができなかつたら、電気を一部つけて、そこに集まって食事をするとか、そういうふうに昼休みの食事時の照明の確保についてどうなのか、私はそういうふうにしたほうがいいんじゃないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

そのとおりということですから、どがんふうにそいぎ改善ばでくつとかなということになりますけれども、一部つけるのか、その辺はどうなのかなと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全部つけます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

いい環境でしっかり市民のために働いていただきたいと思っております。

次に、新幹線についてお尋ねをしていきたいと思っております。

新聞記事をまずちょっと読んでいきたいと思っておりますけれども、これは本年の1月12日の佐賀新聞でございますけれども、「肥前山口～武雄温泉」複線化」ということで「九州新幹線長崎ルートの懸案だった佐世保線「肥前山口～武雄温泉」の複線化が決まり、国は新年度から環境影響評価などに着手する。単線のままなら新幹線の「列車待ち」は避けられなかつ

たが、複線化でスムーズな運行が可能になり、関係者は一様に安堵」しているということで載っておりました。

私も、この新幹線の質問はるるしてきました。最初はフル規格でどうでしょうかと、複線化も高架ではどうでしょうかという話をしてきましたけど、もう状況が民主党の政権にかわり、また、こういう震災があったらこれは無理だろうと私も思っております。だんだんトーンはいつも下がっておりますけれども、いずれにしても喜ばしいことだと思いますので、今後どういうふうにだんだん複線化が進んでいくのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

今後の複線化の状況でございますが、昨年12月26日に政府決定がなされて、現在、この複線化につきましては、国交省の交通政策審議会小委員会で認可に向けての検証がなされるところでございます。

この整備計画の事業認可後は、申されましたように、環境アセス等の複線化の調査、各種調査ですね、それから、ルートを検討、ルートについては在来線の北側とか、あるいは南側とかいう、その検討がなされる予定だと聞いております。具体的な進め方につきましては、今後示されるというふうを考えております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

新幹線のことですとちょっと気になったことが1点ありまして、ちょっと気になったことを質問して、これ本当にどっちなのかなというのがありまして、それはどういうことかといいますと、ここに県の一番新しい最新の23年の3月作成されたパンフレットがこれでございます。（パンフレットを示す）これが今、一番新しいパンフレットですもんね。

そこで、ここに書きちゃあとが西九州ルートの新幹線は1日上下合わせて64本、32往復ですよね、そういうふうにする計画であると載ってるわけですよ、この書類にですよ。私もそういうふうにすると思っておりました。実は、これまた新聞で紹介するんですけども、1月28日、これも佐賀新聞なんですけれども、タイトルは「新幹線長崎ルート 費用対効果など検証」ということで、国交省で初会合、年度内に結論のタイトルの記事がありまして、その中に「長崎ルート（武雄温泉－長崎）は博多－長崎を31往復」、31往復って62本になあとですよ。こいどっちがほんなこてかなと思うわけですよ。今までずっと私は上下合わせて64本、32往復だと思っただけなんですけれども、そういう新聞記事がありましたので、どっちが本当なのか、これを聞きたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

31本と32本ということですが、県のパンフレットにつきましては64本、往復32本ということは、これはJR九州の運行の予定本数ということだそうでございます。

それから、新聞記事にございました1月の佐賀新聞でございますが、この31本という表示については現在、国土交通省が費用対効果を算定いたしております。このときの国交省の想定本数ということで、この31本、あるいはその32本というのがいずれが正しいということではなくて、いずれも間違いではないということで、最終的にはJRが本数を決定していくということになります。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

どっちとも本当だという答弁だったと思いますけれども、これは余りこだわらんとぼってんね。ただ、今までそういうふうに一方的にずっと言われて、そっちのほうでずっと私も解釈をしとったんですけれども、どうもちょっと2つ出てきたから、どっちとも本当だということはわかりましたので、まあいいでしょう。

実は、次の質問に移るんですけれども、今、最初出したパンフレットというんですかね、これは、これが一番新しかと（パンフレットを示す）ですもんね。最新式、まだ新しかとあったかわかりませんが、私が何個かずっと集めた中では、これが一番新しかったわけですよ。それで、これ大抵昔のパンフレット、皆さん見とんさっと思えますけれども、これは平成18年ですね、9月、小さか字で書いちゃあですね、目かからんですもん。

この中に、こういうふうに乗るとるわけですよ。「フリーゲージトレインは博多駅で新幹線ホームに入るの、山陽新幹線に直接乗り入れることが可能になります。これにより、博多駅での乗り換えが不要になったり、乗り換える場合でも移動が楽になります。」と書いちゃあわけですよ。そういうふうにならなると言われよったんですね、もう乗りかえないで大阪まで行かるつよと、そういうふうな発信もずっとあっておりました、今まで。

でも、どうも今、こうやって簡単にいくのかなというのがあるわけですよ。それは、この新聞でずっと説明をしますけれども、7月31日の新聞ですよ、去年の。これも佐賀新聞ですけれども、長崎ルート開通まであと7年ということで、はてなマークがついていまして、「佐賀県がFGTを推進する一番の理由は、佐賀から乗り換えなしで本州入りができ、関西圏との観光や経済交流が活発になること」だというふうに書いているんですよ、これはパンフレットのとおりのように書いているんですよ。その後、「ただ、県が期待する関西圏への直通運転について、山陽新幹線（新大阪－博多）を管理するJR西日本は受け入れの“約束手形”を渡したわけではない。山陽新幹線は最高時速300キロのN700系が主流。同

270キロのF G Tが走れば、ダイヤ全体に影響を及ぼすほか、長崎ルートからの乗客も多くは見込めないとして、同社は慎重な姿勢を続ける。」ということが載っておりました。要するに、関西圏への直接の乗り入れは、J R西日本は慎重な姿勢を続けているというのが載っておりました。これは去年の新聞ですよ。

それで、ことしの新聞にずっとなっていくんですけども、ことしの2月28日、本当にこのごろですよ、の新聞にも、新幹線、これも佐賀新聞ですけども、「費用対効果、国交省試算は妥当」、専門家委員会が報告ということで、この中にも、この日、「J R西日本のヒアリングもあり」と、西日本もあつとるとですね。その中で、出席した来島達夫常務執行役員は、長崎ルートでの導入予定のフリーゲージトレインの山陽新幹線乗り入れに関しては「設備やダイヤ、最高速度の問題もあり、今後の検討課題」だと話したわけですよ。フリーゲージトレインは、山陽新幹線の乗り入れは今後の課題だというふうなどが載っておりました。

それで、これはもっと新しくなるんですけども、これは佐賀新聞ですけども、3月2日ですね。これは県議会の様子のところ載っておりましたけれども、九州新幹線長崎ルートに導入予定のフリーゲージトレインについて、J R西日本が最高時速270キロにとどまることを理由に、大阪直通運転に難色を示していると県議会議員が質問したという内容ですよ、そういう質問があったんだと県議会で。

それで、今後はちょっといい話なんですけれども、これが本当に何日か前ですね、3月9日ですね、ことしの、これも佐賀新聞ですけども、「新大阪乗り入れ妥当」だと、国交省が、委員長が見解を示したと、要するに記事でいいますと、「国交省交通政策審議会小委員会の家田仁委員長は8日、——3月8日のことだと思いますけれども——九州新幹線長崎ルートに導入予定のフリーゲージトレインについて、新大阪まで乗り入れるという同省の前提は「妥当」との認識を示した。」と、よかことは書いちゃあとです。

同じ記事に、同じ委員長がその下にこがも言うとなさあとですよ。「J R西日本がF G Tの最高速度の遅さやコスト面などで乗り入れに「課題がある」としていることについては「事業者としてあらゆる心配をし、チェックする必要がある。条件を満足しなければと考えるのは当然」」だと話したとんさあとの載つとるわけですよ。同じ委員長がですよ、妥当と言いながら、J R西日本が条件を満足しなければ考えるのは当たり前だと、当然だということをやるとんさあわけです。じゃあ、ずっとこういうのを考えてみたら、結局J R西日本次第だということになるわけですね、乗り入れに。

私、フリーゲージトレインの大阪まで乗り入れ、本当に大丈夫なのか、これがもしわかればお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

フリーゲージの新大阪までの乗り入れは本当に大丈夫なのかということでございますが、今、国交省の先ほど申しました交通政策審議会の整備新幹線小委員会というところで現在の検証を行っておりますが、ここにつきましては、あくまでも費用対効果の試算をやっておりますけれども、新大阪への乗り入れを前提ということで今検討をやっておりまして、最高時速は270キロを実証済みということでございます。

また、同委員会においての先ほどのJR西日本の見解として、先ほど申されましたように、システム変更、あるいはダイヤ変更、速度の問題等の課題はありますけれども、今後、前向きに検討をしたいというふうな見解でございます。

3月6日の国交省の国交大臣の発言を引用させていただきますけれども、現在でも「のぞみ」は300キロでございます。「ひかり」「こだま」と速度の異なる新幹線が山陽新幹線内に乗り入れをやっておりますので、九州新幹線西九州ルートにつきましては、この乗り入れを前提としており、今後解決できるという見解を述べておるところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

できるというふうな見解をいただきましたけど、最終的にどうなるか私もわかりませんが、大体最初、県はそれをどんどん打ち出して、乗りかえんで行かるとですよと、そういう話でどんどん新幹線化が進んどったわけですね。ここに、もう近くになってから、いろいろこういうふうなどがどんどん出てくるわけですよ、やっぱり不安かわけですよ。

それで、私、新幹線が実際乗り入れたら、何本ぐらい乗り入るとかなというともちょっと気がかりなところはあるわけですよ。それは、この新聞、またすみませんね、新聞記事だらけですね。これは、ことしの2月29日の新聞で、国交省の専門委員会が「九州新幹線長崎ルート、新大阪14往復へ努力」、「同省が試算した1日14往復の実現に向けて努力する考えを示した」と、努力ですよ。もっと減る可能性だって往々にしてあわけですよ。

これ、私の考えなんですけれども、実は今走りよる鹿児島に行く「さくら」も15本しか乗り入れよらんとですよ、15本。ここでは14本努力するという話ですが、15往復、もちろん往復の話ですよ。ここは、68.5往復、その倍が走りよって、そのうちたった15本しか行きよらんわけです、「たった」て言うたらいかんですね。それから考えるぎ22%ですよ、22%行きよる。ただ、あした、あさって、17日から全体の本数も多く70.5本にふえるんだという話でございます。そんなときは、23本乗り入れができるという話でございまして、その場合は32%、これを31往復の長崎のほうに振りかえて考えたら、往復7本から10本ぐらいですもんね。N700系、一番速か、今一番新しかN700系でもそんなくらいの比率しか聞かんとですよ。そがん考えたら、ここからは私の推測ですよ。これちょっとスピードが落ちるから、乗り入れた

としても往復3本から5本、私はそんならいじゃなかかなというふうな感じがしますけれども、質問に入りますけれども、新大阪まで何本ぐらい乗り入れると思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

現在、国が検討している費用対効果の試算では、今、御紹介ありましたように、上下31本のうちの14本が直通運転をするということで試算をされております。これも先ほどありましたが、3月17日のダイヤ改正で今は68.5往復のうち15往復が直接乗り入れという状況でございますが、3月17日のダイヤ改正で70.5本中23本が直接乗り入れということで、これは32.6%でございます。

そういうことで考えれば、31往復する中で、大体3分の1ということでございますので、10本前後かなという気はしますけれども、鹿児島ルートの実績といえば、大体1時間に1本が直通乗り入れというような状況でございますので、できるだけ多くの直行便を設定するように働きかけていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

部長の見解は10本ぐらいだと、そういうふうに単純に23本で32%ですね。それは部長さんの個人の考えですね。確かに、新聞じゃあ14往復は努力するということですからね。それよりかふゆっことはなかですもんね、減ることはあっても。私は私なりに考えたら、こんならいしか行かんじゃなかるうかなという感じがしました。もう新幹線はとりあえず質問は終わりますけど、最初の思いと大分、そう言いながら、私は新幹線ができることによって、武雄市民としてはいつも言うことですよ。新幹線が特急だと考えて、今まで1時間に1本博多まで行くのが2本にふえるという意味では、私はどんどん進んでいっていただきたいと私自身は思っております。新幹線のことはいくらにしておきますけれども、次に観光についてお尋ねしたいと思います。

この前ですかね、2日前ですかね、山口等議員さんが質問をされておりましたね。宿泊客がずっと減っていると、グラフがですよ。私もグラフどんつくうぎんよかばってん、そういうふうな技術もなかし、能力もなかけんつくってきませんでしたけれども、皆さん思い出してください、あのときの。ずっと減ってくるという状況がありました。確かに、日帰り客は多かったですね。日帰り客は、がばいばあちゃん効果とかいろんなどで多かったというのを説明をされたのを皆さん覚えておられると思いますけれども、それなりに努力はいろいろされていると思いますけれども、実際、よそと比べれば減り方は少ないと思う。これだけ世の中は景気が悪いんだから、そう思いますけれども、質問といたしまして、今、観光客をふや

す、特に泊まり客ですよ。宿泊客をふやすような施策は、今どがんとばまず取り組みよんさあですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、悲観的なことを申し上げますと、今のままだと泊まり客はふえませんよ。やっぱりふえているところを見ると、あの王者湯布院ですらもやっぱり減っているんですよ。かろうじてマイクロでふえているところは、例えば旅館で、もう1人ホテルのように、特に平日ですよ、1泊で1人1室、そして、もう食泊分離ですか、夜は地元の飲食店で食べて、それはセットじゃなくてもいいということで、大体平日で1日6,000円から8,000円ですもんね、高くても、平日です。そういう中で、そして、あと女子の一人旅ですよ、ここにきちんと対応しないと、もうふえません。

その中で我々は、じゃあ行政としてどういう取り組みをしているかということ2つあります。1つは連携です。武雄だけでやってもパワー不足ですので、例えば湯布院、あるいは福岡市、平戸、長崎と組んで、いろんな広域的に組んで来ていただくというのがまず1つ。それと、海外です。きょう、これはいいことだと思いますけれども、円が84円になって円安基調になっていくと、これは国内への観光客がふえるということになりますので、これを追い風としながら、韓国、台湾、中国、香港も含みますけれども、そういったところからできるだけお越しいただくように、今回、専門の課も海外対策課というのをつくりましたので、そこから引っ張ってくると——引っ張ってくると言う失礼ですよ、お越しいただくということをするといったところで、行政ができるところはここまでなんです。ですので、あとは宿泊の旅館であるとか、どうやったら泊まっていただくかというのを真剣にやっぱり考えてほしいということは何をお願いをしたいというふうに思っております。

どっちにしても、これはただ旅館だけの努力でどうなるものでもありません。ですので、行政と宿泊する場所というところ、特に旅館組合と一体となって誘致をする必要があるだろうというふうに思っております。

見通しについては、先ほどいみじくもおっしゃったように、減り方はほかのところと比べると弱いですが、減り方は。ですが、やっぱりふやしていくということが、その地元経済の活性化にダイレクトにつながりますので、そこはやはり武雄市の行政の中心課題の一つとして引き続き取り組んでまいりたいと、このように思っております。

最後にしますけれども、おかげさまで、その平日で視察が物すごく今予約が（発言する者あり）じゃあ、御質問に譲りたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

すみませんね、途中で変なことを言うて。これでまたふゆっかわからんですね、行政視察も。

〔市長「そうです」〕

それで、私思うとばってん、今の答弁は近隣のどこと組んでやりますと、それで海外をねらっていますということはわかりましたけれども、実は、委員会で視察に行ったですもんね、沖縄に、沖縄の南城市ですね。南城市のちょっと資料ば説明するんですけども、南城市の取り組みなんですけれども、南城市は2012年1月1日から市の婚姻届を提出した新婚夫婦へハートマークをモチーフにした結婚記念書を無料で交付すると、市を広くPRすると同時に、市への若者の呼び込みと将来の定住人口増につなげるのがねらいということで、そういうのをされておりました。その結婚記念書は公文書ではなかけん、あくまでも記念書だから、1月1日午前0時以降の届け出を対象に、市民に限らず、市に婚姻届を提出したカップル全員に交付すると、婚姻届提出者第1号には1月4日に市役所で行われる結婚記念書贈呈式に招待され、古謝市長さんから直接記念書が贈呈されるというごたあ施策をしょんさあわけですよ。

それで、この施策は観光の施策じゃないですよ。これはここに書いちゃあごと、定住人口ばつなぐとがねらいだということがわかりますけど、これ何とか使われんかなと私は思うたわけですよ。それは、ここの資料にあるように、市民に限らずということで、私もこれ余り知らんやった。確認最終的にとるんだけど、婚姻届って大体地元に出すですたいね。これ何か全国どこでも出さるっていう話を聞いたんですけども、確認の意味で聞きますけれども、これは間違いなかとですかね、婚姻届。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

婚姻届につきましては、本籍地あるいは所在地というところでも出すわけですけども、所在地につきましては、一時的に滞在をするところでも出せるということでございますので、結果としていいますと、日本全国どの市区町村でも婚姻届は出せるということになります。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

最初やったら間違うとるかなって一瞬考えて、もうできるて言うてくんさあだけでよかです。わかりやすく、市民の人もあって一瞬考えんばいかんですもん、答弁が難しかったら、どがんかなって。それでわかりました。

それで、私、うまいところ利用したら観光客を武雄に呼び込む一つの何か施策になるんじゃないかなというふうに思うたわけですよ。それは、私ちょっと思うたとばってん、やっぱ

り自分の考え言いますけど、もう市長も結構有名人ですよ。

〔市長「いや、違いますよ」〕

いやいや、テレビとかいろいろ出て全国的にメジャーな人だというふうには私自身は感じておりますけれども、例えば、これいつの日でもよかとぼってん、例えば、夫婦の日かな、11月22日とか、あらかじめ日にちば決めて武雄に届け出を出していただきって、そいやったら、もちろん宿泊してくださいよと、それが条件ですよ。そいやったら、武雄市長さんが直接、1日あけとかんばいかんけん、市長さんも忙しい中に1日ね、それは22日って限らんぼってん、いつでもよかとですよ。そういうのを、まずもって市長さんがネットでツイッターか何かよくわかりませんが、そういうとで呼びかけて、そがんとぼしたら結構、これ一時的かもわかりませんが、記念書とかやって、記念品とか渡したら結構結びつくっちゃなかかなと私考えたですよ。それは、やっぱり全国どこでも出さるっということを利用して、そして、ここについて、直接もし来んさあぎ、市長さんが直接渡すと、1日そいけんあかさんばいかんわけですね。そいけん、そこんたいはできないものか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いい考えですねともう感動しましたですよ。やっぱりこういう御質問を賜りたいんですよ。もう本当に聞いているうちにわくわく、ドキドキ、僕の答弁もドキドキする人たちもいっぱいいるそうなんですけれども、それで、本題に戻りますと、武雄の場合はやっぱりバレンタインのときに飛龍窯の祭りあるじゃないですか。あれで3万人お越しになるということをお先ほど答弁させていただきましたけれども、あの日に合わせてやれば、武雄らしくていいかなということをお思って、限定7組ですね、まず。さっきの南城市も年間3組ぐらいなんです。ですので、もう何十組っていてもまた外れますので、7組、ラッキーナンバーにして、市のほうからこの前少しやりましたけど、旅館と協力をして、無料で御招待しようというふうにしたいと思っておりますので、ですので、あしたから婚姻届を武雄で出していただいた方で、これ早い者順じゃありません。厳正な抽せんをさせていただいた上で7組を上限としてまず御招待をして、そこに添加をして、改めて婚姻の愛の誓いをそこでさせていただいて武雄に泊まっていたいで、ゆっくり温泉に入っていたいで末永いお幸せを心からお祈り申し上げて、私の答弁にさせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

質問取りでいろいろ聞きんさって、それからまたいろいろアイデアが浮かびんさったと思

いますけれども、こういうのも考え方やけん、それが観光客増にどれだけつながるかわかりませんが、やってみていいと思います。やっぱりそがんことは何でもして見て、よかったらまたずっと広げて行って、考え方を考えて行ってやればいいと思うし、だめやっぎんもうやむっぎんよかことやっけんですよ。絶対、そういうのをいろいろしてください。

次に、男女共同参画についてお尋ねをしたいと思いますが、これ資料で地域の資料、アンケートですけど、地域での男女共同参画の実態調査、これ23年のとがちょっとここにああでもんね。これ資料いただきました。それで、どがんことばしよんさあかというぎ、いつも裕子さんが言いよんさあごと、公役の出不足金の関係の話とか、あとは例えば区長さんとか自治公民館長さんが女性なのか、男性なのかと、そういうのを調査しよんさあと思うわけですね。

それで、ことしは聞くところによると5年に一回の男女共同参画社会まちづくりのための市民意識調査というのもされているという話です、本年度ですね。どがんことば調査しよんさあかというぎ、男女平等意識についてのお尋ねとか、いろいろありますけど、そういうのを調査されて、これ調査しただけじゃどがんもならないですもんね、ただの統計だけだったらですよ。これを、男女共同参画の推進のためにどのように活用をされているのか、まずお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

いろんな調査でございますけれども、ことしは、先ほど言っていましたように、市民意識調査ということで5年に一回の分をしたわけです。通常、区長さんを対象に毎年調査している分もございます。

こういうふうな部分の調査結果につきましては、男女共同参画の啓発イベント、それから市報とか、そういうふうな中で公表をいたしまして、男女共同参画の啓発に用いているということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

イベントとか市報で使いよんさあということで、そういうふうなことで啓蒙活動に、啓蒙って言葉おかしかわかりませんが、男女共同参画を推進するために使いよんさあということはわかりました。

私、男女共同参画の頭で考えて、その視点で考えて、ちょっとばって気づいたとばってんね、普通、こい当たり前と思えばってん。例えば同窓会がありますって、男性8,000円、女性6,000円とか、大体これ男女差のああとですよ。

これは普通は当たり前ですよ。私も当たり前って思うたばってん、男女共同参画の精神、視点で考えれば、これはやっぱり、これもおかしかと私は思いますけれども、いかがでしょうか。おかしかと思いませんかっていうことです。（「おかしかさ」と呼ぶ者あり）

〔市長「おかしかと思います」〕

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

今おっしゃっていただきましたように、私の例を挙げては失礼ですけれども、私は若木生まれで若木育ちです。父も母も妻も若木で、毎年2月には同窓会、同年会がっております。その中でも、今議員さんおっしゃったように、すべて差がついております。これは生まれてからずっと私経験ですので、ごく当たり前かなというふうな意識を持っていたわけですけれども、今おっしゃっていただきましたように、差をつけるということはどうなのかなと今思っているところでございます。

〔22番「おかしかということですね。よかよか」〕

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

これは普通ね、絶対普通は当たり前ってしか考えんわけですよ。でも、本当に男女共同参画を広げようと思うぎ、こういうとの疑問点もやっぱり考えていかんば、出不足金の差ばかりじゃなくて、こがんことも当たり前と思うばってん、実は男性やけん幾ら、女性やあけん幾らがいかにて視点から考えれば、やっぱりこれ絶対おかしかと思うんですよ。

これを今後はやっぱり男女共同参画の社会を目指すためには、こういうとも含めた、こういうのおかしかと思いませんかというごたつところに関するような、やっぱり意識調査もしていかにばいかにちやなかるうかなと思いますけれども、そういうふうな調査についてはどうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

市のほうでそれだけの調査をするということは非常に難しいかもわかりませんが……

〔22番「まぜてくさ」〕

いろんな調査の中で含めまして取り組むということは有意義かなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

そりゃ、そいだけはさるもんかんだ。そいけん、それはまぜてしてくんさいということ
を私、そういう意識を込めて言うたわけですよ。質問取りのとき、ある程度知っとんさあ
と思いますけれども、こいだけばとれとは言わんですよ。それはいろいろな出不足金につい
てはどう思います、それは賛否両論はあっていいと思いますよ。それで、こがんと対して
おかしかと思いませんか、いや、おかしゅうなかさいって、経済的に違うとやあけんとか、
それはいろいろ考えがあっていいと思いますので、とりあえず、そがんとぼとってどどん
啓発していかんばいかなじゃなかかなと私はちょっと思いました。小さなことですが

次に……

〔市長「大きなことです」〕

ありがとうございます。

次に、他の事業の連携、連帯についてお尋ねをしたいと思います。

まず、基本的な考えを聞きたいんですけども、例えば業務が他の部署の範疇に及んだ場
合、連帯、連携、これはどういうふうにされておられるのか、一般的な考え方でもいいです
からお答えください。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

業務が複数の部署にまたがるという場合、この場合については、あるいは他の部署に影響
があるという場合については、十分に連絡、連携をとるということが必要というふうに考え
ております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

必要だというふうな話を聞きました。

実は、2月3日、白岩の野球場ですね、そこに、結果的に防災行政無線だったんですけども、
防災行政無線の立ちよったわけです。私も近所の人から聞かれたので、「あい何やろ
うか」と言いよんさったけん、ばって見たぎ、防災行政無線って思うばってん、ちょっと私
も不確か、何でかというたら、やっぱり野球場なのでスピーカーがついておりましたけれど
も、その野球の放送用かなと一瞬考えたんですよ。私もちょっと混乱しましたので、電話ば
すぐかけた。恐らくは防災行政無線やろうて思うたけん、総務課の安全安心係にかけたとで
すよ、2月3日に。だれもおんされんとですよ、課長おんさあですか、部長おんさあですか、
部長も課長も全部出とんさったわけですよ。

そこで、あそこ範疇が都市計画だから、都市計画の守備範囲だから、都市計画に電話を回

したとですよ。都市計画はおんさったですね。それは公園の係の中島さんという方やったですね。それで、「あい何か立ちようばってん、何や」って言うて、「防災行政無線じゃなかとですか」って聞いたぎ、「いや、そがんと何も聞いとらんですもんね、知らんですもんね」という話やった。それで、体協ですね、体育館のほうに私は直接かけませんでしたけれども、議会事務局の江上さんを通して聞いてもろうたっですよ、あれ何かわかあやっということで。でも、それでも、体育館のほうも何もそれは聞いておりませんっという答えやったですね。そういう答えやった。

それで、市民の人に対して、はっきり確定的にこれですよということは言えんやったわけですよ。やっぱり市長さんは、議事録ちょっと精査して言うんですけれども、これ小さなことですけど、やっぱり23年3月議会でも政治家は御用聞きでいいんだという話、私もそいでよかと思うとですよ。でも、御用聞きもでけんですよ、どがん思うですか、市長さん。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁つらいものがありますけれども、先ほどの例に即してちょっと言えば、要は、もしわからないのはわからないで、それは仕方がないですよ。自分の守備範囲といえども、その守備範囲の中でも担当が違えばわからない。そのときに、彼または彼女がしなきゃいけなかったのは、要するに聞くことなんですよ、すぐ。だから、例えば、「松尾議員さん、調べますので、ちょっとこれまでの間待ってもらえますか」と言うだけでも違うんですよ。それでちゃんと自分が責任を持って聞いたことを、松尾議員さんにきちんと伝えれば済むような話なんですよ。だから、何でもかんでも知っとく必要というのはないんですよ。それは行政はそれぞれ分野がありますし、私自身も知らないことが多いですので、そのときは必ず聞くということ、それときちんとそれを伝えるという訓練がなされていなかったのは、私の責任ですので、今後もっとスムーズに御用聞きができるように、私自身も努めてまいりたいと思いますので、許してください。

〔22番「はい、許します」〕

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

今度は、次に、市の土地、建物の借用契約についてであります。

農業を応援するという意味では、例えば、市のあいた土地を機械利用組合に貸すというのを、農機具倉庫なんかを貸すことは、私はそういう意味では、応援するという意味では大いに結構なことだと思っております。

そこで、まず質問ですけれども、市の土地で農業の機械利用組合ですね、ここに貸してい

るのは何件ぐらい武雄市はありますか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

機械利用組合の数は、正確にはちょっと今のところ把握しておりませんが、平成18年度以降、武雄市の補助事業等を活用して機械を導入した機械利用組合は57組織あります。ほかにも過去に購入した機械利用組合等もありますので、はっきりした数字はわかっておりません。

それで、市の土地、建物を借用している組織は2組織あります。

〔22番「2組織ね」〕

2です。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

この機械利用組合ということで、ちょっと古か新聞ですけれども、4年ぐらい前に、これ1月24日の佐賀新聞ですけれども、武雄市の補助金返還命令ということで、志久東部地域機械利用組合345万円虚偽申請ということでありまして、武雄市長が戻してくいろということになっておりました。これは、新聞の内容からいきますと、監査でしんさったわけですね。全部読まんですよね、監査は事業計画段階で虚偽の申請がなされていると判断したということで、こういうふうになったんですけれども、内容は組合員の実際の構成員は8人で面積が計10.22ヘクタール、10町ばかりだったのが構成員を25名として面積を32.35ヘクタールで申請したというごたあ内容ですよね、新聞によるとですよ。

こいは佐賀新聞でばって載ったばってん、西日本新聞の中では、もうその25人の、今言うた25人のうち、17人については本人の了解も得ずに無断で印鑑ば使って申請したというごたあ内容の事件というか、事案ですよね。そういう事案が4年前ぐらいにあつとるわけですよ、返還命令から。

それで、ここでは問題点は組合員が実際、構成員が8人やったばってん、25人のうち17人は勝手に印鑑ば使われたというごたあ内容ですよね、また繰り返して言いますけれども、2件の利用組合と言いよんさったですね。まさかこがん組織には貸しとんされんでしょうもん、その土地ば。それから聞きたいと思います。まさか、この志久東部地域機械利用組合とは契約なかでしょう。そこからまず聞きたいと思いますけど。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

お尋ねの組織には貸しておりません。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

そりゃそがんでしょうね。がん悪かところには貸されんですもんね、貸したらいかんですもん、がん悪かところには。

それで、じゃあ2件という話ですけれども、どことどこ貸していますか。

○議長（牟田勝浩君）

川内野北方支所長

○川内野北方支所長〔登壇〕

お尋ねの件でございますが、追分機械利用組合と北方町蔵堂永池生産組合の2つの組織と土地貸借契約を締結しております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

確認の意味で聞きますけれども、これは無償で貸しとるでしょう、無料で。

○議長（牟田勝浩君）

川内野北方支所長

○川内野北方支所長〔登壇〕

無償の貸し付けといたしております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

すみません、こういうの使いえんけん（パネルを示す）ちょっと時代おくれになるんですけども、場所はこの辺が北方駅ですよ。北方駅の裏、問題のところは、今からお尋ねするのは追分機械利用組合についてちょっとお尋ねをしていきたいと思いますけれども、場所は北方の駅の裏になるんですね、線路があって、ここの土地ですよ、この三角の、これ市の土地なんですよ。場所はここですね。こい、よかここにああとですよ、たたかるっですよ。こいはたたかれんですもんね。たたかるっがちょうどよかとぼってんですよ、場所はここなんだということでございますけれども、実は、これ地元の人から今さっき、悪かことした、虚偽申請した利用組合の人間と、この追分機械利用組合、これ一緒という話ば聞いたとです。一緒のメンバーばいって。私も調べました、地元から聞きながら、調べてここにメンバー表がああとですよ、調べました。もちろん、私が調べて市役所のほうにこいで間違いなかかて確認もとりました。個人名は言われんですね、Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、

Hさんまでおんさあとですよ、8人。

確認で聞きますけれども、監査したところに聞きたいんですけれども、監査委員事務局に聞きたいんですけれども、この8人と新聞に載った実質の8人、こい一緒じゃないですか、どうですか。

○議長（牟田勝浩君）

一丸監査委員事務局長

○一丸監査委員事務局長〔登壇〕

ただいまの議員さんからの御質問ですけれども、志久東部地域機械利用組合の8名と追分機械利用組合の8名が一緒ではないかというふうなことですけれども、監査につきましては、市長から監査請求に基づきまして監査を実施しております。問題となっております補助金の不正受給にかかわったとされる8名につきましては、調査上、確認はできますが、議員のお尋ねの追分機械利用組合の構成メンバーがこの8名と同じメンバーかという御質問につきましては、地方自治法の第198条の3、監査委員の服務及び武雄市情報公開条例第7条に基づき、監査としてはお答えできないと判断をしております。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、これはおかしいと思うわけですよ。恐らく個人情報であなたたちは言われんっていう話やったですよ。この8人とこの8人がもし仮に一緒だと、私は自信と確信を持って調べ上げた上で言っていますよね。だれかわかあですか、だれていうとわからんとですよ。だから、私はこういうふうな社会正義で考えたら、やっぱりその個人情報を保護するよりも市民の知る権利が大事だと思うんですよ。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

それで、これは監査委員事務局だから、独立機関だからこれ以上言いませんけど、これ資料を私は執行部にやっていますよ。1週間あったじゃないですか、これわかりますか。調べることはできたと思いますけれども、いかがでしょうか、一緒じゃないですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の権限に基づき監査委員会に監査をするように指示をしました。その結果、監査のほうからは監査委員の服務として言えない部分については私も聞く立場じゃありません。

したがって、悪法も法です。監査の服務並びに地方自治法、そして、武雄市情報公開条例に基づいて、やはり保護すべき話と市民の知る権利ということに関して言うと、私は仮に同じだったとしても、もう補助金の返還命令に従っているわけですよ。ですので、私はそうい

う意味では、その部分に関して仮に同じであったにしても、それだけをとって問題があるというふうな認識には立っていません。その上で、繰り返し申し上げますけれども、じゃあ一緒かということについては、さまざまな法律、そして、条例から答える立場、答える権限は私には付与されておりません。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

そういうふうな話ですけれども、私はやっぱり社会正義で考えたら、社会正義で個人情報を守ることも大事かわかりませんが、知る権利のほうが大きいと思いますよ。これがもしわかって、だれのことかて教育長さんはだれかわかあですか、わからんでしょう。だれかわからんとですよ。

それで、終わったことかわかりませんが、私がこれ言いたいのは、結局、市の土地を、これ契約は新聞に出たのが20年1月ですよ、21年の4月に更新という形で更新しちゃあわけですよ。ばってん、あなたたちが答えんというなら、それはもうそれ以上は言われんですよ。でも、よく考えてみてくださいよ。やっぱりこれをもし市が言わんやったら、何かあっちゃなかろうかと、そっちのマイナスのほうが大きいと思いますよ。隠しとっちゃなかろうか、何か弱みでも握られとっちゃなかろうかと、それはこのテレビを見よる者は変のう勘ぐるですよ。

だから、もうこれ以上は私も言いませんけど、もし私が言うたのが事実であるならば、後だって調べて、この契約を排除してくださいよ、これが事実なら。ここで事実か、事実じゃなかというのを答えられんなら答えんでいいですよ。形で見せてください。じゃあ、本当にそいが事実なら、それは私も名前は違うけん市もだまされんさつたろうと、気づきんされんやったと私は思うとりますよ。でも、やっぱりそこで契約ばしとって、それも本当に、もう地元の方はそがん言いよんさあとですよ、同じ者ががんして借っとおばいって、そりゃあんまいしか、17人が勝手に使われとるとですよ、印鑑ば。

だから、もうここではっきり答えろとまでは言いませんよ、市長さんがそこまで言いんさつたとやあけん。ただ、私は、社会正義で考えたら、個人情報を保護するよりも、知る権利のほうが大きいと思いますよ。私も、個人情報には物すごう配慮しています。Aさん、Bさん、Cさん、Dさんって、名前も出しておりません。だから、とりあえず、これが後だってぴしゃっとそれが間違いないというのが、ここは言われんかもわかりませんが、形で見せてほしいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

松尾議員の御指摘、おっしゃることはよくわかります。これ多分、確かに、聞かれている方々は何か市が隠しようやなかろうかと……

〔22番「そがん思うさ」〕

それはそうだと思います。ですが、先ほど申し上げたように、もう実際、補助金返還しとんさあわけですよ。それともう1つは、いろんなその法律、条例によってやっぱり言うてはいけないということもありますので、ただ、やっぱりそういう疑惑、不正を議員初めとして持たれるということは、我々に落ち度があります。したがって、今後そういったことがないように、どういう形にするかは、ちょっと私たちにお任せしていただいて、何らかの対応策をきちんと取りたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

とにかく、やっぱりこの件は17人の人が勝手に使われたって、そういうふうな声が地元から入ってきて、私も自信と確信を持って私は調べました。だから、これはもう本当に、これが私が言うてが、私は自信がありますから、間違いないとしたら、もうここで言わんでよかですよ、もう契約を本当にね、そういう形で示していただきたいと思えます。

では次に、今度は農政についてお尋ねをしていきたいと思えます。

自分の考えを話します。農業の水門の開閉、これ大変なんですよ。特に農業者というのは、もうほとんど高齢者が多かたですよ。それで、水門をあけるために高いところに上って、まずもって落ちる危険性があると思うわけですね。それでまた、雨の降りようときは雷もどんどん鳴って、落雷に遭う、雷に遭う危険性だつてあると思うわけです。

それと、水門をあけるためのハンドルを回さんばいかんわけです。これ物すごい水圧がかかって重たかたですよ。私は、これは私の推測なんですけど、結構水門ばあけ損なつての水害というのも結構あると思うわけですよ。それは何でかというたら、雨のば一つて降つて雷のわんわんわん鳴いよるときに、やっぱり水番さんだつてちょっと落ちついてから行こうかねと思つて、ちょっと逃しんさあときのあるて思うわけですよ。そういうふうな意味では、そのあけ損ないの水害もあると思うわけです。

それと、私もずっと調べたところ、白石町ですね、これは補助事業で水門の開閉を楽にできるような装置を設置されているような話を聞きました。それはどのような装置なのか、わかればお答えをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

制水門の開閉については、議員おっしゃられるとおりに、雷雨等があるときの危険な作業

ということであります。そういうことで、操作員も高齢化している中で白石町では、開閉の操作を軽減できるような装置を平成21年から22年にかけて238カ所整備がされております。これは、既設の巻き上げのハンドルの軸に設置をして操作、回す力を軽くし、早く操作ができるというふうな装置になっております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

今、白石の話を書きました。そいば聞いたら、楽になあとはなあということは聞きましたね。私も確かに水圧が強かけん、巻き上ぐつとが楽になる。本当に助かると思いますけれども、私が問題点3つ言いました。高いところに上らばいかんて、もう高齢者が多かたですよ。雨の降りよるぎ、上りよるときに滑っておっちゃける、けがするということも結構あると思う。結構上って回すごととなつとると思いますよね。そいに、また落雷に遭う危険性だつてあると思いますので、例えば武雄市でボタンを押すだけで水門の開閉ができるような装置を、補助事業でもあれば導入はできないかなと思うんですけども、要望的な質問になりますけれども、いかがでございませうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

操作の軽減によって、異常気象時の洪水防止、あるいは操作員の危険防止には大変効果があるかと思いますが、水門の上に上がらずに操作するという装置もないとは言われませんが、制水門の規模によります。そういったことで、地元負担もありますし、そういったことで国の補助事業等取り組めないか、今後関係機関等に要望をしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

やっぱりこの部門は大事かと思うとですよ、水番さんは結構高齢化しとる、農業全体が高齢化やけんですね。そいけん、やっぱりここんたいば充実していただきたいなと私は思います。

以上で質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で22番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。